



障害者への理解を高めよう

社会福祉法人 文京槐の会
理事長 伊藤 達彦

日本の高齢者は約2,600万人、総人口の約20%です。子供の人口は約1,700万人、総人口の約14%です。

高齢者は社会の中で大きな地位を占めていますから、その方々の主張も大きなウエイトを占めてきていることは当然と言えます。一方で子供の人口は、毎年減少をしています。少子化が如何に社会にマイナス要因をもたらすかは、社会の全ての階層・年齢層に深刻な問題となつていきますから、「少子高齢化」という言葉のとおり、高齢化と結びついた大きな課題となっています。では、障害者はどうでしょうか。

人権思想、ノーマライゼーションの普及等で社会での理解度は相当進んではいますが、やはり、「多勢に無勢」的な面がありまして、遅々として進まない面があることも事実です。

日本における障害者（身体、知的、精神）は約700万人です。総人口の約5.5%ですから、総人口からすれば一握りの人口なのです。

それもひとくくりにして「障害者」といいますが、身体障害、知的障害、精神障害では其々異なる状況・課題を抱えています。その中で知的障害者は約55万人で総人口からすればわずか約0.4%ですから、「多勢に無勢」的な面は如何ともしがたいわけでそれが社会の実態です。この実態を踏まえ、どうしたら知的障害について、きちんと社会から受け止めて貰うかを考えていかなければならないと思う次第です。

私共、文京槐の会の後援会の会員は、地域のオピニオンリーダー、地域をよく承知している方等がたくさんいますので、後援会の皆様のご協力を頂きながら、このことを解決する力になつただければと考える今日この頃です。

共に生きる社会をめざして

はくと・ピア
施設長 江澤 嘉男

これまでの障害者福祉の枠組みを振り返ってみれば、障害のある人達その多くは、同じ障害のある人としか生きて行かない、さらには、障害のある人となない人が全く別の場でしか生きられない社会をこれまで一生懸命つくってきたと言えます。

例えば、知的障害のある子どもは、障害児が通う通園施設に行き、就学時は特別支援学校で学び、卒業すると障害者の通所施設に通う、そして家族の介護が困難となれば入所施設で一生暮らすと言う福祉を創ってきました。

こうした福祉を改めようと、国は「障害者自立支援法」を施行させ、障害があつてもなくても、共に暮らしやすい社会を目指そうとの大きな舵取りを行おうとしています。しかし、現状の仕組みにどんなにお金を投入して充実させても「共に暮らしやすい社会」には向かえません。なぜならそこには、お金でも仕組みでも解決できない、人の心がとても大切な要素として必要となるからです。

私たちは、この後援会の皆様から頂くこうした「人の心」こそ「共に生きる社会を目指す」大きな道標となることと、とても心強く思っているところです。今後とも末永いご支援をお願い申し上げる次第です。



伊藤理事長



江澤施設長

「もちつき大会」に参加してきました



今年の二月十五日(日)の午後、後援会の副会長でもある蓮華寺の住職橋高智光さんのご招待により、蓮華寺で行われました佐渡ヶ嶽一門による“もちつき大会”に参加してきました。

当日は、はくと・ピア利用者、短期保護利用者及び職員で参加。相撲好きの利用者は、お相撲さんに会えるとあって出発前から職員に何度も何度も誰が来るの？何時に出発するの？今何時？と興奮を隠せずにおりました。

蓮華寺に到着すると、境内から人があふれ出ていて蓮華寺坂にまでお相撲さんを見たい人たちの行列が出来ているぐらいの賑わいでした。

境内に入ってみると、琴光喜関、琴欧州関は防犯のタスキを掛け、来客者一人ひとりに握手、また、蓮華寺恒例の安全もち、健康もちを配布していました。また、臼と杵が小さく見えるほどの大きな体で若手の力士はもちをついていました。

我々もすっかり、安全もち、健康もちを頂き、琴光喜関、琴欧州関と握手。なおかつ、つきたてのふるまい餅も食べ、境内の熱気で寒いことも忘れて楽しく過ごしました。

後援会の副会長橋高智光さんの計らいにより今回のもちつき大会に参加させて頂きありがとうございました。

文京槐の会 後援会 事務局



平成20年度後援会活動報告

平成20年度事業報告

(1) 会員数

① 個人会員 78名

② 団体会員 8団体

(2) 主な活動内容

① 社会福祉法人文京槐の会の役員、各種委員、保護者、職員等と連携をして、会員の募集を行った。

② 社会福祉法人文京槐の会利用者のクリスマス会を開催した。

③ 社会福祉法人文京槐の会のえんじゅ祭り及び動坂福祉会館祭りにボランティアとして協力した。

④ 社会福祉法人文京槐の会への財政援助を行った。

⑤ 映画鑑賞会を協賛した。

⑥ 社会福祉法人文京槐の会利用者・職員を蓮華寺主催による佐渡ヶ獄一門によるもちつき大会へ招待した。

⑦ 「後援会だより」第2号の発行を行った。

(3) 決算

① 収入 696千円

ア 会費収入 342千円

イ 前期繰越金 209千円

イ その他 145千円

② 支出 317千円

ア 槐の会へ寄付 150千円

イ その他経費 167千円

③ 繰越金 379千円

平成21年度事業計画
(1) 目標会員数

① 個人会員 174名

② 団体会員 30団体

(2) 主な活動内容

① 社会福祉法人文京槐の会の役員、各種委員、保護者、職員等と連携をして、会員の募集を行なう。

② 社会福祉法人文京槐の会の各事業へ協力を行なう。

③ 社会福祉法人文京槐の会の各施設の利用者拡大へ向けての協力を行なう。

④ 社会福祉法人文京槐の会への財政援助を行なう。

⑤ 年1回「後援会だより」の発行を行なう。

(3) 予算

① 収入 1,047千円

ア 会費収入 500千円

イ その他 547千円

① 支出 438千円

ア 槐の会へ寄付 150千円

イ その他経費 288千円

③ 繰越金 609千円

平成21年度後援会活動計画

平成21年度文京槐の会近況報告

① 文京槐の会

平成21年3月の任期満了により、役員・評議員が改選され新たな体制で運営して行きます。また、法人のホームページもリニューアル致しました。
(<http://www.enjunokai.com>)

② はくと・ピア

年度末に8名の退所者が出ましたが、この4月に特別支援学校の卒業生を新たに向かえました。また、前施設長の高橋修司が文京区へ戻ったため、新たに他の社会福祉法人から障害福祉の大ベテランである江澤嘉男新施設長を向かい入れました。そして、8年ぶりに新規職員も採用して、活気あふれる新生はくと・ピアとして日々努力をしています。

③ 文京藤の木荘・動坂福祉会館

昨年、藤の木荘の改修工事を行い、新たな空間で日々利用者として過ごしております。短期保護の利用も動坂福祉会館と合わせて前年度より約2割の利用増となりました。今年度もさらなる利用増を目指してがんばります。

④ 動坂地域活動支援センター(フレンドルーム)

今年度は、作品販売、作業等を取り入れて利用者への工賃支給を目指していきます。

⑤ 中・高生の放課後居場所対策事業(クラブ・すてっぷ)

昨年の7月より、文京区から受託している事業です。毎日、中・高生のパワ―に負けず職員が一丸となって頑張っています。

⑥ 障害児長期休暇対策事業「タイムケア」

今年度の夏季は、8月10日から8月31日までの日程で行ないます。また、今年度は昨年度より利用申込が多かったため、定員7名から10名に定員を増やして対応します。



役員名簿

平成21年6月22日に開催されました総会におきまして、任期満了による役員改選が行われましたので、次期役員をご紹介します。

会長	八幡善量 (再任)
副会長	橘高智光 (再任)
副会長	藤井寔 (再任)
幹事	亀谷貞夫 (再任)
幹事	諏訪紀子 (再任)
幹事	高野一義 (再任)
幹事	筒井幸代 (再任)
幹事	鶴賀敏夫 (再任)
幹事	深谷純子 (再任)
幹事	小林繁夫 (再任)
監事	小友計宏 (再任)
監事	大友計宏 (再任)



絵 はくと・ピア利用者小倉あき子さん作



募 集 事 項

① 槐の会

槐の会では、利用者、軽作業、ボランティア、レクリエーションの招待等を募集しております。まずは、お電話を下さい。電話番号 03(3943)4300 北見

② 後援会より

会員募集

個人会員 1口2,000円
 団体会員 1口5,000円
 口座番号 ゆうちょ銀行 00130-9-460083
 口座名義 文京槐の会 後援会